

活気あるまち、 自然と調和のとれたまち



この10年の概要

大野中地区は、国道16号線により東西に分断されています。古淵駅の開業以来30年を過ぎますが、この16号線の東西両側では、現在でも住宅開発が盛んです。

また、平成21年には大野台ゲイマーぶどう園跡地に製造業を中心とした16社が進出して企業団地Sia神奈川が誕生し、16号線の近くには、大型商業施設も開業しています。

平成30年4月現在、地区の人口は、63,587人(26,975世帯)、自治会加入世帯は17,844世帯(32自治会)で、10年前より共に増えています。また、この10年の間に、ブリリアテラス町田プライドヴィレッジ(平成21年度より)、シーズガーデンパラディス町田(平成22年度より)、グレイスタウン大野台(平成23年度より)と3つの自治会が誕生しています。



古淵駅周辺



国道16号線

木もれびの森を守る

大野中地区の大沼・大野台を中心とした73haに及ぶ「木もれびの森」(相模原市近郊緑地特別保全地区)は、市民共有のみどりの財産であり、大野中地区の宝物でもあります。

この宝物を守るため、現在9つの自治会が、街美化アダプト制度に協力し、清掃活動に携わっています。

また、地区連としても、平成29年11月に木もれびの森の中にあり相模原市の史跡に指定されている畑地かんがい用水路の清掃



木もれびの森

を行うなど、木もれびの森の景観の保全に貢献しています。

さらに、平成30年2月には、「木もれびの森意見交換会」に近隣自治会が参加し、木もれびの森の保全や活動について活発な意見交換を行いました。



畑地かんがい用水路の清掃

▶ 地域防災力の向上

東日本大震災の発生は、地域の防災対策に大変大きなインパクトを与えました。

より実践的な訓練が求められ、当地区では情報伝達手段確保のため、PHS及び防災無線機を導入し、連合自主防災隊・単位自主防災隊・7つの避難所運営協議会・現地对策班を含めた連携訓練を続けています。

また、災害時要援護者への対応について、地区連と民生委員児童委員協議会との話し合いを2年かけて行いました。

この他にも、単位自主防災隊の訓練について議論をしていきますが、これらを重ねていくことで、地域防災力の向上を目指します。



防災訓練の様子

▶ 境川斜面緑地の整備と親水護岸

境川の斜面の整地や緑地保全も行われてきました。平成27年には、みどりと水辺に同時にふれあえるようにということで、古淵鵜野森公園の散策路が整備され、境川親水護岸への接続がなされました。経路には、地層が表れている貴重な露頭が見られ、三つの特徴的な火山灰層を観察することができます。

公園と水辺の空間、古淵鵜野森公園と親水護岸とを接続したことで、さらに自然を感じることでできる場としてグレードアップしています。



古淵鵜野森公園から続く親水護岸

▶活気あふれる“まち”に・・・

地区の活気を維持するために、自治会加入促進は大きな課題です。

平成24年度・25年度にはイトーヨーカドー古淵店で、平成30年にはニトリモール相模原で加入促進を行いました。さらに、平成28年度には、単位自治会のPRも取り入れた加入促進パンフレットを地区連として作成しました。今後も引き続き活動を行っていきます。

また、相模原よさこいRANBU!と大野中地区ふるさとまつりは、地区に活気を呼ぶ2大祭りです。地区連も実行委員会の中心として、その運営を担ってきました。祭りの賑わいを通じ、地区全体を活気づけられるよう、今後も創意工夫していく必要があります。

そして、平成27年9月30日に閉鎖した相模原市東清掃事業所の跡地（約20,000平方メートル）については、今後地域として大きな関心を持ってその動向を見守っていききたいと思います。



イトーヨーカドーでの加入促進

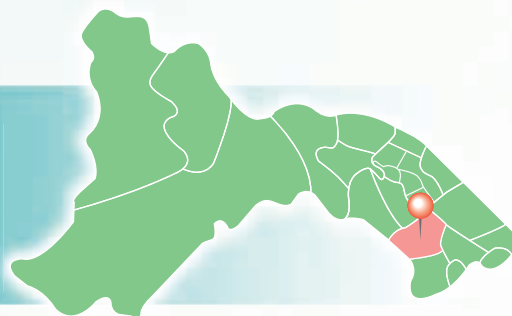


相模原よさこいRANBU!



大野中地区ふるさとまつり

歴史と自然と地域の和 未来につなぐ “いいまち あさみぞ”



地区の概要

清流と豊かなみどりに恵まれた歴史のあるまち麻溝地区は、北里大学一帯から相模川に至る起伏の多い地形で、相模原公園、横山丘陵、相模川段丘一帯の緑地と相模川をはじめ道保川・姥川・鳩川・八瀬川の5河川が流れている自然環境に恵まれた地域であるとともに、当麻山無量光寺、天応院、市場天満宮、八景の棚、下原やえざくら通り、更には旧街道の名残を残す道祖神や石物など史跡や名勝の多い地域でもあります。



道保川



県立相模原公園 セセラぎの園地内(フィッシングパーク跡地)



当麻山無量光寺



市場天満宮

一方、JR相模線原当麻駅を中心とした一帯は、区画整理事業によって整然とした街並みが形成されています。また、地区内には、大学、社会福祉施設、病院、公園、競技場等の様々な機関・施設が数多く存在し、特色ある環境を創出しています。

交通については、平成25年に「首都圏中央連絡自動車道（さがみ縦貫道）」の相模原愛川インターチェンジが整備され、周辺のまちづくりも進められており、そのアクセス道路となる「県道52号（相模原町田）」については、アクセス向上と安全確保のために、片側2車線の自動車道と自転車専用道路等を整備する、道路の拡幅整備事業が現在進められています。

さらに、相模大野駅から原当麻駅を結ぶ新交通システムの計画についても検討が行われており、交通の利便性の更なる向上が期待されているところです。

また、相模原愛川インターチェンジ周辺の当麻地区では、幹線道路沿道という立地特性を生かし、周辺環境にも配慮しながら、魅力ある土地利用を図る拠点整備が進められています。

▶地区自治会連合会の活動

麻溝地区自治会連合会は、23の自治会で構成されており、地域住民の福祉の向上を図るため、自治連が主体となり、地区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、観光協会、消防団等と連携を図りながら、福祉、交通安全、防犯、防災、スポーツ、文化、環境衛生等の様々な活動を実施しています。

特に、ふるさとまつりや防災訓練では、地区を取り巻く環境の変化や地域住民の意向等を反映し、毎年趣向を凝らした行事を開催しています。



八景の棚



下溝八幡宮



相模原愛川インターチェンジ付近



ふるさとまつり

この10年の地区の動き

平成21年～23年	相模原麻溝公園競技場（平成26年3月より名称「相模原ギオンスタジアム」）改装、区画拡張整備
平成25年3月	相模原愛川IC開通
平成25年4月	相模原当麻宿地区土地区画整理事業開始
平成26年5月	ボランティアセンターあさみぞ開所
平成26年11月	下溝八幡宮再建（平成24年4月4日の火事により本殿消失）
平成28年8月	JR相模線「下溝駅」新駅舎完成
平成29年3月	「麻溝公園前交番」開署
平成30年4月	麻溝小学校新校舎完成
平成31年2月	麻溝まちづくりセンター・麻溝公民館移転

	世帯数	人 口	自治会加入世帯数	自治会加入率
平成20年	6,329	17,858	3,728	58.9%
平成21年	6,342	17,847	3,742	59.0%
平成22年	6,440	17,965	3,742	58.1%
平成23年	6,440	18,030	3,771	58.6%
平成24年	6,517	18,090	3,844	59.0%
平成25年	6,524	18,035	3,844	58.9%
平成26年	6,647	18,156	3,839	57.8%
平成27年	6,709	18,111	3,840	57.2%
平成28年	6,562	18,024	3,836	58.5%
平成29年	6,662	17,667	3,869	58.1%
平成30年	6,844	18,089	3,861	56.4%

（各年4月1日現在）

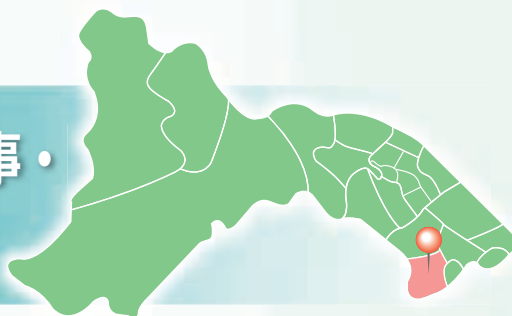
世帯数及び自治会加入世帯

世帯数は、この10年で515世帯増加していますが、自治会加入世帯の増加は、133世帯となっており年々自治会への加入世帯数が減少しています。この傾向は、市自治会連合会全体の動向からも同様の傾向と思われる今後の課題であります。

なお、麻溝地区の平均年齢は、平成30年4月現在で43.89歳と南区全体の平均年齢45.80歳と比較して若い世代が多い地区となっており、高齢化率も低くなっています。この若い世代を中心としたまちづくりが期待されるところです。

新磯地区自治会連合会

豊かな自然環境が満ち溢れ、伝統行事・文化等を継承するまち「あらいそ」



地区の概要

新磯地区は相模原市の南端に位置し、豊かな自然環境に満ち溢れ、遠景には、大山・丹沢連峰が望める地域に約5,000世帯、14,000人が暮らしております。

また、新磯桜まつり、相模川芝ざくらまつり、相模の大凧まつり、相模川帆かけ舟実演会、勝坂遺跡縄文まつり、新磯ざる菊花見会、新磯菊花展等の伝統・文化行事が継承されており、古くは縄文時代を代表する勝坂式土器が出土した地として名高い地域です。平成27年からは新磯の田園風景にふさわしい新磯かかしまつりが開催されています。

新磯地区自治会連合会は33自治会で組織された「上磯部」「下磯部」「勝坂」「新戸」の4自治会連合会で構成されています。

「豊かな自然環境が満ち溢れたここ新磯地区で、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生き生きと暮らせるよう、安全で安心な地域コミュニティの更なる活性化を目指そう!」をスローガンに掲げ、公民館、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ、新磯小学校、相陽中学校等地域の諸団体と連携を強化しながら、安全・安心なまちづくりを目指し取り組んでおります。



新磯地区最大のまつり「相模の大凧まつり」

今後の課題と取り組み

○防災意識の醸成と地域防災力の向上

- ・災害時要援護者避難支援体制の確立
- ・消防団の活動や組織の抜本的な見直しを図り、防災体制を強化する
- ・災害時のハザードマップに基づき、洪水、土砂災害、地震など災害の種別ごとに避難所を別の場所に設定する検討を進める

○安全で安心して暮らせるまちの実現

- ・通学路の安全確保のため、道路の拡幅工事、歩道の整備
- ・市道新戸相武台の拡幅工事や、大凧まつり、芝ざくらまつりなどのイベント開催時に多くの往来がある近江屋道の歩道などの地区内の道路整備



自治会加入促進のぼり

○住環境・生活環境の充実

- ・交通不便地区の生活交通確保のため、コミュニティバスの運行、乗合タクシーの運行や、既存バス路線の見直し、増便、停留所の見直しを働きかける
- ・誰もが気軽に安心して集える場の創出や、地域の人たちがともに支えあい協力しながら、住みよいまちづくりを進めていく意識の醸成

○福祉コミュニティの形成

- ・買い物代行サービスの提供や移動販売の実施などによる買い物弱者支援

○豊かな自然環境を生かした地域活性化

- ・農業公園や相模川親水広場など、遊具がなくてもボール遊びや水に親しむことができる場所の新設

○観光拠点の整備

- ・相模原市磯部民俗資料館が保有する様々な収蔵品の展示場所を、勝坂遺跡公園内に整備し、観光資源の一つとして活用する
- ・JR相模線相武台下駅やその周辺の階段、ベンチ、時計などをノジマステラ神奈川相模原のチームカラーで装飾、ラッピングするなど、チームと連携した観光振興を進める



地区総合防災訓練



平成30年で67回を迎えた「ふるさとまつり、レクリエーション大会」



新磯地区観光案内モニュメント

▶新磯地区この10年間の歩み

- 平成21年 3月 新磯出張所・新磯公民館改修工事竣工
- 平成22年 2月 新磯地区を練習拠点とする女子サッカーチーム
「ノジマステラ神奈川相模原」が発足
- 平成22年 4月 政令指定都市移行に伴い、「新磯出張所」から
「南区役所新磯まちづくりセンター」に名称
変更政令指定都市移行記念「風と大地の饗宴」
＜大風揚げ＞開催
史跡勝坂遺跡公園開園
- 平成22年 5月 神奈川県主催「水防演習」を実施
- 平成25年 4月 「風と花の観光休憩所あらいそ」開設
- 平成27年 3月 新磯橋付近に観光モニュメントが完成
- 平成27年 3月 第20回新磯桜まつり記念祭を開催
- 平成27年 9月 第1回「新磯かかしまつり」開催
- 平成27年10月 「新磯見守りステーション」が設置される
- 平成28年 3月 自治会未加入全世帯アンケートの実施
- 平成28年 7月 JR相武台下駅・下溝駅がリニューアル
- 平成29年 3月 自治会加入促進用のぼり旗・横断幕を作成・設置
- 平成29年 9月 市地域会場として新磯地区総合防災訓練を実施
- 平成30年 5月 神奈川県主催「水防演習」を実施
- 平成30年 6月 プレ実証フィールドグラウンドの自治会使用開始



実りの秋は「かかしまつり」



新磯桜まつり舞踊パレード



毎年見事に咲き誇る芝ざくら

地域の拠点「そあら」とともに



相武台地区の概要

相武台地区は、市の南西部に位置し、座間市とキャンプ座間に隣接しています。

市内の地区で最も狭い面積（1.25平方km）に、小田急線相武台前駅周辺の商業地域や大規模な集合住宅（相武台団地やグリーンパーク）を有した、市内で最も人口密度が高い地区です。また、高齢化も著しく進み、高齢化率32%と市内でも高い地域となりました。

地区自治会連合会においては、1970年（昭和45年）に14自治会4,006世帯で発足し平成30年4月1日現在、32自治会（相武台前町内会自治会連合会、相武台団地連合自治会、相武台グリーンパーク自治会連合会、5単位自治会）に、約6,500世帯の方が加入しています。

自治会加入率は、68.20%と市内平均（54.00%）を大きく上回っており、自治会活動への関心が高い地区となっています。また、「みんなでつくろう安全・安心のまち」をスローガンに防犯・交通安全・防災、ボランティア活動などが活発に行われています。

ふるさとまつり、盆踊り大会、どんど焼きなどに加え、平成22年度に地域活性化の取り組みとして始まった「相武台芸術祭」が地域イベントとして定着しつつあるなど、地域の方々がふれあうことの出来る場づくりが地域のみなさまの協力により実践されています。

平成29年度は、災害時の防災情報を掲載した地区防災マップの作成や、地域の小学校区ごとに交通事故等の危険箇所を掲載した安全・安心マップを作成するなど、安全に安心して暮らせるまちづくりを目指しています。



相武台ふるさとまつり

▶地域の拠点「そあら」の誕生

旧相武台まちづくりセンター・公民館は、昭和59年4月に開館してから30年が経過し改修の時期を迎えていました。地域の方々から「当該の施設では手狭で改修だけでは、大会議室の拡充など、利用者のニーズに応えられないため、旧磯野台小学校跡地に移転したい。」との要望があり、それらの意見に対し、市は検討して方針が決定（「旧磯野台小学校を活用し改修して移転」）となりました。

その後、平成27年8月から工事が着工し、平成28年9月に完成し、新たな相武台まちづくりセンター・公民館など複合施設として整備されました。

新たな施設には、大会議室の拡充や工作室・多目的室などが新設され、また、現地対策班の活動スペースも確保され、地区連合自主防災隊と各自治会とも連携して、地域の防災力の向上を目指しています。

移転先には、相模原看護専門学校、相武台こどもセンター、グラウンド及び体育館があり、移転した相武台まちづくりセンター、相武台公民館、相武台高齢者支援センターを含め全ての施設が、相武台地区の新たな拠点として、親しみをこめてもらうために、地域住民に「愛称」の募集を行い、ひらがなで「そあら」という愛称に決定しました。

「そあら」については、女子美術大学の学生にロゴマークのデザインの作成を依頼し、看板等を作成・設置しました。今後は「そあら」が地域に定着し、地域の拠点に相応しい施設となるよう取り組んでいきます。



移転後の相武台まちづくりセンター・公民館



地域の拠点「そあら」ロゴマーク

▶地区内の主な出来事（平成20年以降）

- 平成22年 4月 県立相武台高等学校が県立新磯高等学校との統合再編により、県立相模原青陵高等学校として開校
- 平成28年 9月 地域の拠点「そあら」開所
相武台地区社会福祉協議会による交流拠点
「ひだまり相武台」オープン
- 平成29年 3月 相武台グリーンパーク災害対策合同委員会の取組『大規模団地住民約4,000人の震災避難訓練』が総務省消防庁主催の「第21回防災まちづくり大賞」を受賞
- 平成29年10月 市立相武台小学校創立50周年祈念式典の開催
- 平成30年 7月 みんなの福祉フェスタ（旧「福祉のつどい」）の開催

▶これからの相武台に向けて

地区の周辺では、将来に向けた大規模の開発事業（「麻溝台・新磯野地区整備促進事業」）が開始されています。現在の進捗状況は、先行事業として第一整備地区の取り組みが始まっています。この開発事業は、産業・みどり・文化及び生活が複合的に融合した新たな拠点となり、相武台地区を含めた周辺地区とともに、新たなまちづくりが進んでいます。

2020年には創立50周年を迎えますが、自治会加入世帯が減少していく中でよりよい自治会活動を継続していくためには、自治会員一人ひとりの努力では限界もあるので、行政と協働をしながら地域の拠点「そあら」とともに地区の活性化を目指してまいります。



第21回の防災まちづくり大賞受賞

相模台地区自治会連合会

自分たちのまちは自分たちで 守る！活かす！相模台



▶ 地区の概要

相模台地区は、小田急相模原駅の西側に位置しています。駅北口から独立行政法人国立病院機構相模原病院までの約1kmの街区に沿って連なるサウザンロード相模台商店街が、地域の中心に、位置しています。

相模台地区自治会連合会は、27の単位自治会から構成され、地域防犯・防災活動をはじめ、交通安全運動など活発に地域活動が行われています。

また、小田急相模原駅北口地区の再開発により「ラクアル・オダサガ」と「ペアナードオダサガ」が新たな顔となっており、行幸道路（県道51号）の拡幅や商業施設の充実により、快適で便利なまちづくりが進められています。

このほか、地域住民の連帯も強く、自治会ごとに行われる盆踊りなどの祭りも活発に行われ、会員相互の親睦が図られています。



小田急相模原駅北口



地域の夏祭り

▶地区の活動

地域住民が自立し、地域の活性化のために努力を惜しまない相模台地区は、様々な祭りを実行委員会が運営してきました。

また、防犯意識も高く、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に児童の登下校の見守りや、防犯パトロール活動を自治会主体で積極的に実施しています。平成30年には、日本財団の助成を受け、白黒の青色パトカーを導入し、自治会だけではなく、PTAや地域の協力を得て活発な防犯活動を実施しています。



青パトの出発式には、たくさんの方が参列

▶主なできごと

- 平成23年度 第1回「芸術フェスタ」開催
- 平成25年度 とっさの時の安心ケース配付
- 平成26年度 第1回「おださがロードフェスタ」開催
- 平成26年度 第1回「相模台インターナショナルフェスタ」開催
- 平成28年度 青色パトカー配備・活動開始
- 平成29年度 サポートセンター楽らくの開設
- 平成29年度 相模台地区シンボルマーク制定
- 平成29年度 相模台地区防災マップ更新
- 平成30年度 白黒の青色パトカー導入
- 平成30年度 麻溝台・新磯野地区整備事業着工
- 平成30年度 第1回「協育ネットワーク連絡会」開催
- 平成30年度 がんばろう学習支援センター開設



おださがロードフェスタ



青色パトカー

相模台地区のシンボルマーク

平成29年に、地域に愛されるシンボルマークが完成しました。コンセプトは、相模台の「S」大人も子供も皆が笑顔で過ごせるようにと思いを込めています。自然豊かな部分を「芽」で、水道道などの水を「水滴」で表しました。相模台の魅力をPRできるとても可愛いシンボルマークだと喜ばれています。



シンボルマーク

自主防災活動

近年の災害発生に伴い、避難所と自主防災隊の連携強化に取り組んでおります。全自主防災隊が無線機を保有し、自主防災隊と現地対策本部・避難所が、年に複数回の通信訓練を行っています。

9月の第1日曜日を「相模台防災の日」とし、地区全体で総合防災訓練を実施しています。防災活動は、自治会と、民生委員・学校・福祉施設等、地域一体となって災害時要援護者支援の取り組みなどを実施しています。また、相模台地区防災ネットワーク協議会を組織し、日頃から顔の見える関係を築き、災害に備え、何が足りていないか、どう対処すればよいかを協議しています。



救援物資引き渡し訓練

地区の今後

今後、地域と学校の連携強化を図る目的で設置した「協育ネットワーク連絡会」の充実と、子どもの学習支援の拡大を目指します。

また、麻溝台・新磯野地区整備事業が進み、まちづくり区域の見直しが行われることから、更に時代・地域のニーズにあった魅力的な「まちづくり」が求められております。相模台地区自治会連合会では、これらの課題に向けて地域一丸となって取り組んでまいります。



炊出し配給訓練

大野南地区自治会連合会

若い世代が選ぶ魅力ある コンパクトシティ 大野南



▶ 大野南地区について

大野南地区は、小田急線相模大野駅を中心として南北に広がる地域で、市の南の玄関口として位置づけられています。相模大野駅は新宿方面や藤沢・小田原方面へのアクセスの分岐点でもあり、特急や急行も停車し、1日の乗降客は平成29年度で13万人を超えています。また、相模大野駅の近くには国道16号と県道51号が交差しており、交通の拠点でもあります。

駅周辺には相模女子大学グリーンホールや相模大野図書館、南保健福祉センター、相模大野南メディカルセンター、相模大野中央公園、市唯一の大型百貨店「伊勢丹」、小田急ホテルセンチュリー相模大野などがあるほか南区合同庁舎・南消防署などの行政機構も近くに設置されています。

また、相模女子大学や県立高校などの教育施設や、多くの医療施設も駅周辺に集まっています。さらに、平成25年の相模大野駅西側再開発により、西側地区にも大型ショッピングモールや大規模集合住宅を含む大型複合施設が完成しました。これにより従来からの商業地区と合わせ、大型の商業地区が誕生しました。

このように当地区は、行政機構、商業、医療、教育、文化施設が駅を中心に集まり、いわゆるコンパクトシティとして、利便性の良さや子育て環境の良さ、医療の充実などから住民が増加し続けております。住宅環境としては、多くの戸建て住宅地や大規模集合住宅が立ち並びながら、広い面積の農地も存在し、市内で一番人口の多い地域でもあります。人口の増加は今後もしばらく続く予想ですが、自治会加入率が一向に上がらないのが大きな課題といえます。また、若い世代が大勢転入し続けているので、小中学校の教室不足も今後懸念されます。



相模大野駅周辺の町並み

▶ 大野南地区自治会連合会

自治会連合会には32の単位自治会が加盟しています。世帯数は18,682世帯（平成30年現在）です。32の自治会の中では、自治会法人谷口自治会が最も古い歴史を持っています。谷口自治会に伝わる古文書に、明治30年頃の「谷口区協議費徴収原簿」（現在の自治会費）という文書が見つかり、自治会の歴史

が120年を超えて現在まで続いていることが最近になってわかりました。いわば“レジェンド”ともいえる谷口自治会の活動は、他の自治会へ大きな影響を与えてきました。相模原の伝統や文化、風習を伝え、特に相模大野の今昔については、「語り部」のように新住民たちに歴史を語ることができる人たちがいまだにたくさん存在しています。このように新旧の住民たちが一緒に意見交換しながら活動しているのが大野南地区自治会連合会です。

▶大野南地区自治会連合会の主な事業

大野南地区では、防災・安全・安心、地域福祉、子育て支援等について自治会と関係団体とが連携・協調しながら活動をしています。その中でも年々子ども達が増え続けており、自転車事故も増加していることもあり、子ども達の安全・安心と健やかな成長を重点に置いた事業を実行しています。

- ・子ども向け防災イベント
「イザ！カエルキャラバン！ in相模大野」
- ・ふるさとまつり…上鶴間地区・大野南ふるさとまつり
- ・防災用情報無線機を使った情報伝達訓練
- ・スケアードストレイト事業…南区安全・安心まちづくり推進協議会大野南支部として開催
- ・自治会加入促進事業

▶「イザ！カエルキャラバン！ in相模大野」

「イザ！カエルキャラバン！ in相模大野」は、若いファミリーや子ども達を対象に、自治会員という枠を外し、防災・減災意識を高めると同時に、イザという時に役に立つ技や知恵を身につけてもらう防災イベントです。小さい頃からゲーム感覚で楽しみながら防災訓練に馴染んでいくという種を蒔きつつ、地域に貢献できる大人に成長するように願っています。この地区で育つ大勢の子ども達が自助・共助の力を繰り返し学び実践するという取り組みです。



対決バケツリレー 水を次々に競争して運んでいます！

▶ふるさとまつり

大野南地区では8月と9月にふるさとまつりを開催しています。まつりのステージでは、地区の人たちが日ごろの練習の成果を披露したり、小中学校、高等学校の生徒による演奏などは大人気です。各自治会や各種団体の模擬店など、地域の親睦・交流の場であり、子ども達への「ふるさとづくり」の場にもなっています。それぞれの会場で



第30回上鶴間地区ふるさとまつり(会場:谷口中学校)

は自治会加入促進事業や災害復興支援の活動も実施し、集まった募金は直接被災地に送っています。



第30回上鶴間地区ふるさとまつり(会場:谷口中学校)



第41回大野南ふるさとまつり(会場:ポーノ相模大野)



▶スケアードストレイト事業

大野南地区は自転車事故が多く、南区安全・安心まちづくり推進協議会大野南支部の事業として「スケアードストレイト」を毎年実施しています。ルール違反の自転車運転のさまざまな例による事故を目の当たりにすることによって、交通事故の恐ろしさを親子で体験し、ルールやマナーを守った自転車運転を学ぶ場となるように取り組んでいます。この事業は地区内の小学校の校庭で実施していますが、相模原南警察署の協力による親子向けの交通安全講話もあり、交通安全知識の高揚を図り、地区内の交通事故を少しでも減らしたいと願う活動です。



スタントマンの迫真の演技

心ふれあう 住みよいまちづくり



地区の概要

東林地区は、小田急線の東林間駅と小田急相模原駅を中心とした商業で賑わう地域と、落ち着いた住宅地からなる生活の利便性の高い地域です。

地区内には、横浜水道道や相模緑道緑地、ふれあいの森や保存緑地、点在する公園に緑が残されており、健康づくりや憩いの場として親しまれています。

また、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、公民館と自治会連合会が連携を密に、さらに、老人会、交通安全母の会、商店街をはじめ各種団体との相互の協力により、様々なイベントや取り組みを行い、誰もが安全で安心して暮らすことができる東林地域を創っています。

東林ふるさとまつり

毎年9月の「東林ふるさとまつり」は、東林小学校と東林公民館の2会場において、地域総ぐるみにより、東林地区に住み、働き、学ぶ全ての人たちが心のかよいあう明るいふるさとを目指して開催し、毎年大盛況の中、地域の交流とふれあいが図られています。



東林ふるさとまつり

防災・防犯

東林地区では、特に防災・防犯に力を入れております。

防災面の特徴的な活動としては、平成26年度から連合自主防災隊、5箇所の避難所運営協議会と現地対策班が連携した地区全体の防災訓練を、平成29年度からは体験型の防災訓練を実施して欲しいとのアンケート結果を踏まえ、「防災体験デー」を6月に、消火器訓練や心肺蘇生など、参加者が体験することを目的とした訓練を実施しています。



防災体験デー

また、市の地域活性化事業交付金を活用した、防災マップの作成も行いました。

防犯面では、防犯パトロールを毎月第2、第4金曜日に東林間駅と小田急相模原駅を起点に実施しているほか、年末年始の防犯パトロールも各自治会で行うとともに、平成26年度からは「青色防犯パトロール」の免許取得の講習会とパトロールを実施しています。

当初の免許取得者は40名でスタートしましたが、約5年で80名を超える免許取得者となり、地域の安全・安心を守っています。



防災訓練



青色パトカー出陣式

▶ 地域での交流など

毎年2月と7月には相模カンツリー倶楽部をお借りして、「東林チャリティーゴルフ大会」を開催しており、毎回大盛況の中、地区社会福祉協議会と東林間サマーわぁ！ニバルに寄付を行っています。

この他の活動としては、毎年8月に東林間商店街振興組合が中心となり本市の観光イベントとなっている阿波踊りの祭典「東林間サマーわぁ！ニバル」が行われており、自治会連合会では、踊り子のための3箇所の給水所の運営や中学生ボランティアの活動のサポートなどを担っています。

また、東林地区内の高等学校である東海大学附属相模高等学校野球部が甲子園に出場した際には、地域全体で応援を行っています。

これからも、地域の様々な団体や行政と力を合わせて、安全で安心して暮らせる「心ふれあう住みよいまちづくり」を進めてまいります。



東林間サマーわぁ！ニバル



チャリティーゴルフ大会

▶ 平成21年度～平成30年度の主なできごと

- 平成21年度 第10回チャリティーゴルフ大会開催
市立東林ふれあいセンター開館
- 平成23年度 第20回東林間サマーわぁ！ニバル開催
東海大学附属相模高等学校野球部が甲子園（春）で優勝
- 平成26年度 青色防犯パトロール開始
第20回チャリティーゴルフ大会開催
第40回東林地区体育祭開催
相南地区雨水幹線整備工事開始
- 平成27年度 東林間駅西口エレベータ設置工事着工
東海大学附属相模高等学校野球部が甲子園（夏）で優勝
- 平成28年度 東林間駅西口エレベータ設置完成
市立相南児童館開設
- 平成29年度 「防災体験デー」開始
第40回東林ふるさとまつり開催
第30回ふくしまつり開催
相南地区雨水幹線整備工事完成
- 平成30年度 境川第28バイパス雨水幹線整備工事開始